

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100166		
法人名	医療法人 至誠会		
事業所名	グループホームあかり		
所在地	佐賀市田代2丁目7-24		
自己評価作成日	平成29年11月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年12月14日	外部評価確定日	平成30年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>月に1度の外出レクリエーションや入居者様と一緒に調理を行ったり、洗濯物を畳んでいただいたり、今まで家庭で行っていたことを継続してもらい、施設内での役割を持っていただいたり、協力医療機関もなゆたの森病院と至誠会クリニック、訪問看護師との連携も図れるため、急変時や、異変などあったらすぐに対応が出来、家族様、本人様も医療面でも安心して過ごすことができる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は県庁に程近い、佐賀市中心部の住宅街に位置しており、近くには、法人のクリニックや公園、薬局、コンビニ、幼稚園等が点在している。法人内には、母体の病院を始め、デイケア施設や訪問看護ステーション等も有しており、それぞれの機能を活かした連携が図られている。事業所は、3階建てのビルの内部を改修して造られており、2階には居間兼食堂と台所、浴室があり、3階が居室エリアになっている。職員は「利用者様が共に安心・安全に楽しく過ごして頂く」を理念に掲げ、利用者の残存機能を活用した楽しい暮らしの支援に取り組んでいる。食事では、利用者の力と意向に合わせて、食材の下拵えや調理(味付け)、盛り付け、後片付け等を一緒に行っている。また、レクリエーションにおいても、利用者の好まれるカラオケや将棋等を取り入れたり、月に1度は、利用者の思い出の場所や普段行かない所へ出かけて楽しんでもらっている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をつくり、貼り出しをしている。入居者様が安心して暮らすことができるように実践している	「利用者様が共に安心・安全に楽しく過ごして頂く」を理念としており、管理者は職員の採用時に理念を説明し、職員が日常の介護で迷う時にも理念に立ち戻り対応するように指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	挨拶はするが、事業所が地域の一員としての交流はできていない	近くの公園等で出会う方には挨拶をしているが、自治会への加入もなく、地域活動への参加や近隣住民との交流には至っていない。	地域密着型サービスの意義と役割を再認識し、地域とのつながりの構築に取り組まれることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトなど出来ることはあるが、院内でしか活かしていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見は頂いており、なるべく活かすサービスを行っている	運営推進会議は2ヶ月に1回、利用者、家族、自治会長、行政職員等の参加を得て開催されている。会議では、運営状況や行事等の報告を行い、参加者からは、地域行事等の情報提供がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時に事業所のことは伝えていますが、運営推進会議でしか関わっていない。	最近、管理者が行政の窓口を訪ねて、事業所の状況を伝えたり課題解決に向けた話し合い等を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアには取り組んでいる。研修や院内勉強会でも身体拘束について学ぶ機会がある	職員は研修等を通して身体拘束の禁止行為や弊害を理解し、拘束のない支援に努めているが、事業所がビルの2階(居間兼食堂等)、3階(居室)であることから、エレベーターには安全対策の電子ロックが設置されており、利用者の行動には制限が見られる。	利用者の気持ちと行動を細かに観察し、安全に配慮しつつ抑圧感のない自由な暮らしを支援するための工夫を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会・研修・院内勉強会で学ぶ機会がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者研修や実践者研修などで学ぶ機会はあったが、それを活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様の声に耳を傾け、説明を行うように心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様から管理者や職員へ要望を話されることもあり、その場合は早急に対応するようにしている。ご家族様の中にも遠慮される方もおられるため、意見箱の設置を玄関に設置している。	家族の面会時や運営推進会議への参加時に声をかけ、意見や要望等を聞くように努めており、要望等が出された時には速やかに対応している。公的な苦情受付窓口も重要事項説明書に記載し、契約時に説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見や提案はでていない。	管理者は毎月の職員会議や日常の勤務の中で、職員の意見や提案等を聞き、サービスに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生に力を入れており、残業も急変などがない限りないため職員が働きやすい環境の整備はされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会があり、外部の研修も積極的に行かせてもらえる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などで話す機会はあるが、相互訪問などは行なったことはない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様が入居された際、必ず職員が話を聞くようにしている。その際、アセスメントを利用したりして本人様の不安なことなど話しやすいようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	極力時間をかけて要望等に耳を傾けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には家族様も本人様も新たな場所・関係性ということが不安の一つだと考えられるため、まずは、不安を取り除けるように話に耳をかたむけている。その他のサービス利用の要望があれば対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食や夕食の準備や調理、注ぎ分けなど職員と共にしている。また、洗濯物たたみについては入居者をお願いし、入居者が自分たちで手分けして行われている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会や家族と外出をされたりと家族が当施設へ来所される事が多くある。また、なにか協力をご家族様へ仰いだ際にも積極的に動いてくださるご家族様が多い。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの施設の方をお願いをして、馴染みの方と途切れないように努めてはいるが、全員ではない	利用者の馴染みの人や場所等を把握しており、近くに住んでおられる知人との往来を支援したり、以前の仕事に関する場所等を一緒に訪ねたりしている。また、家族の協力を得ながら、墓参り等も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数の為関係は把握しやすく、入居者様同士が支え合えるよう席順などを配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネがSWを兼務しているため、相談や支援は行いやすく、家族様も相談しやすい		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居の際やケアプラン作成の際など、本人様の言葉を伺ったり、ご家族様からの要望や意見等を伺うようにしている。しかし、現状では前回と同じような希望が多く、新たな要望や希望などが聞く事が少ないように感じる。	介護計画作成時の聞き取りや日常の会話の中の一言、及び、表情等から利用者の思いや希望を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方、趣味・好きなことや物等についての情報収集が出来ていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	他の職員からの報告やケース記録・業務日誌を読み把握に努めているが、まずは入居者一人ひとりと関わりを持ち、短時間でも話をするように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議は他の職員と一緒にいるが、その日にいる職員からの情報やアイデアのみになっている事が多い。本人様やご家族様を交えての担当者会議は退院時でありと限定的になっている。	本人・家族が介護計画の評価や見直し時の会議に参加されることは難しいが、希望や意見等を確認して関係者で話し合い、本人本位の介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、定期的(3ヶ月、6ヶ月)に見直しを行っている。また、状態に変化があれば速やかに見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の書き方について、実地指導で指摘があり、勉強会を行なった。今までもケース記録からの情報収集していたが、これからより一層計画の見直しに反映をしたり、情報共有に役立てるようにしていきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様・ご家族様からの要望や希望、ニーズに対してはまずは検討し、出来るだけ意向に沿えるように介護保険サービスだけでなく、医療とも連携しながら対応を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流は少ない。しかし、近くの公園に散歩へ行った際やコンビニへの買い物など近所の人たちに声をかけてもらう機会がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関があり、家族様の疑問があれば医師は家族様と話す機会を作っており、入居者様の声にも医師は耳を傾けている。そのことから信頼関係もできていると考える。	本人や家族の希望されるかかりつけ医の受診を支援しており、主治医の変更は本人・家族の希望でなされている。協力医療機関以外の通院は基本的に家族の付添であるが、状況に応じて職員が同行し適切な受診がなされている。事業所はそれぞれの医療機関と良好な関係を構築している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡・報告・相談し、指示等を得ている。何か気になることがあると双方ともに連絡をとっており、看護師も資料作成をしてくれたり入居者様が安心して看護を受けられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネとSWを兼務していることもあり、情報交換や関係作りはできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員や看護師、医師との連携を図りながら医師や看護師から病状についてははなしてもらい、事業所で出来ることを説明しているが、事業所内のチームにとどまっている。	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し同意書を作成している。利用者が重度化した場合には、医療機関と連携し事業所のできる限りの支援を行うが、終末期の対応は行われていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故時の対応は出来ているが、訓練は行なっていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施。日中のみミズ薬局・至誠会クリニックの応援があるが、夜間はできていない	年に2回、消防署の協力も得て、昼夜の火災を想定した通報・消火・避難の訓練を実施している。昼間の火災想定訓練には、近くにある同一法人のクリニックや薬局から協力を得ているが、夜間想定訓練では職員の参加のみで近隣からの協力を得るまでには至っていない。	事業所の造りと勤務体制からも夜間の避難誘導の限界を具体的に確認し、地域の方にも訓練に参加してもらえ体制作りが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄終了後などなるべく周りに聞こえないように聞くようにしたり、失禁等のときは職員同士が連携を図り周りの入居者様に気付かれないようにトイレやお風呂場へ誘導している。	利用者を尊重した優しい言葉かけや対応しており、視線も合わせて話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーション時など入居者様から要望があったり、出ない場合は、職員が案を出し入居者様に選んでいただいたり、なるべく入居者様に意見を聞くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごしたいや、その店に行きたいと要望があれば、その要望に極力応えているが事業所の都合が優先されることが多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様に洋服をもってきていただいて、外出時など職員と一緒に選んだり、2ヶ月に1回散髪の方に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に1回麺の日やパンの日を設けている。食事職員と一緒に作ったり、注ぎ分けをしてもらって、食事に興味を持っていただけるよう取り組んでいるが、片付けまでは出来ていない	利用者の意欲と残存機能を積極的に活かして、食材の下拵えや味付け、盛り付け、お盆拭き等を一緒に行い、食事の時には、見守りのために職員もテーブルに着き、楽しい食事となるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が協力してカロリーを計算したり、バランスを考えた献立にしている。一人ひとりの状態に合わせてキザミ食やミキサー食などを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの言葉かけ、誘導は行なっており、必要な方には付き添い言葉かけを行なっている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を参考にし、職員同士話し合い誘導の時間を決めたり、極力一人での立位があまり保てない方でもトイレにて排泄を行ってもらっている	排泄パターンに合わせて前誘導を行い、昼間は全員をトイレでの排泄で支援している。失禁された時には、本人のプライドに配慮しながら速やかに対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の体操や水分補給など心がけて、必要な方には下剤などで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お風呂の時間など、誰が一番に入るかは聞いたり、入浴剤を使用しているが、時間や曜日は事業所側の都合が優先されている。	週3日(月・水・金)を入浴日としており、順番に配慮したり、入浴剤を使用する等して入浴を楽しめるように支援している。入浴日以外は足浴や陰部洗浄を行って保清に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前、午後ともに休息の時間を設けている。それ以外の時間でも入居者の状態に応じて対応をおこなっている。就寝前に保湿クリームを塗ったりしてリラックスできるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すぐ見れるところに入居者様のファイルを置いており、副作用などをすぐ確認できるようにしている。処方の変更になった時など変化が見られたときは看護師に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションで公園へ行ったり、外出のときにはカフェでお茶をしたり気分転換の支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所としては近くのお店には行けているが、職員の人数等でできていないことが多い。しかし、家族様が外出など本人様が希望される場所に行かれている。	気候の良い時季には週1回程度の散歩をしている。また、毎月1度の外出レクリエーションで利用者の馴染みの場所等に出かけてはいるが、日常的な外出支援には至っていない。	外出のもたらす効果やその人らしい暮らしを再確認し、積極的な外出支援に取り組まれることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の持ち込みをお断りしている。施設内でのイベントの開催時には偽物のお金をお渡しし、そちらから支払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば行っている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物を職員と一緒に作ってもらいそれを掲示している。混乱しないように、トイレまでの道順を掲示している。	ビルの2階に位置する居間兼食堂は日当たりが良く、壁や棚には季節を感じさせる飾り物も見られる。北側にあるトイレには暖房器具を置いて寒さへの配慮がなされている。また、脱衣室にはエアコンが設置されているが、浴室には温度計もなく、シャワー浴に安心な環境の整備が望まれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様どうして過ごせるよう席順を工夫しているが、独りになれる空間はできていない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学・契約時に入居者さまの馴染みのものを持って来て頂くようご家族様へお願いしている。お仏壇を持ってこられる方や馴染みのソファや椅子をもってこられている。	家族に利用者の馴染みの品の持ち込を勧めたり、外の景色に配慮する等して、居心地の良い安心できる居室作りを支援している。写真や仏壇、本、飾り物、時計、カレンダー、テレビ、椅子等が見受けられる。それぞれの居室には温度計が設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの張り紙など矢印で迷わないようにトイレへ行けるよう工夫している。なるべく本人様に動いていただけるようタンスの位置などを変えたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
		○	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない